

# “へき地在宅医療特区”構想の概要（案）

## 阿賀町の現況と課題（提案に至る背景）

### 現況

- 町の全域が特別豪雪地域で無医地区数が県内最多
- 住民約12,000人の半数が高齢者
- 全4,800世帯の4軒に1軒がひとり暮らし高齢者世帯
- 町独自の光ケーブル網とテレビ電話が全世帯に整備済み
- 県立津川病院と町営診療所の連携による訪問診療・訪問看護の体制が整っている

### 課題

- ◎ 診療後に調剤薬を薬局に受け取りに行けない患者が多い
- ◎ 現行の在宅患者訪問薬剤管理指導では全ての対応は困難
- ◎ 後継者不足などにより薬局（現在4店舗）の維持が困難

解決策

「新たな公的仕組み」を創って  
現行制度を補完

薬剤師の介入が必要と判断される患者に応じた対応

- 〔薬剤師の直接訪問による対応が可能であり有効なケース〕
- 〔テレビ電話による服薬指導と調剤薬配達が必要なケース〕

仕組み運営は地域在宅医療推進センターが担う

## 構想イメージ図

